

平成17年度財団法人東洋文庫事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年度財団法人東洋文庫事業計画の概要は下記の通りです。

事業目的

財団法人東洋文庫は、全国の代表的な研究者よりなる東洋学連絡委員会の企画ならびに審議にもとづき、広く学界の要望に応える全国的な、また国際的な東洋学研究センターとして、資料センター・共同利用研究施設としての機能を果たすべく、必要な各種の事業を行う。

事業項目

- I 調査研究
- II 資料収集・整理
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

I. 調査研究

東洋文庫は、アジアを構成する諸地域の歴史・文化の発展に関する基礎資料を、組織的かつ継続的に収集してこれを広く内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料に基づく広範なアジア研究を推進して、内外のアジア研究の進展に大きく貢献することを主要な目的としている。

東洋文庫はこの事業のいっそうの拡充に向けて、平成15年度以降、研究体制を一新した。すなわち（イ）研究員の編成において若手研究員の参加に意を注ぐとともに、（ロ）現代アジアの課題に多面的かつ総合的に取り組む方策を打出し、（ハ）欧文による成果の発信を拡充して国際的な活動を強化し、（ニ）研究情報および資料情報の公開と共同利用、内外にわたる情報の授受を促進すべく、研究部と図書部を一丸とした電子情報システムの構築に着手した。これを機に、研究分野は《超域アジア研究》と《アジア諸地域研究》に二分され、前者は現代アジアの学際的な動態研究、後者は各ディシプリンを生かした基礎研究に取り組む。

A. 超域アジア研究

1940年代以降のアジアは激変と急成長をとげ、21世紀の世界情勢の展望にとってアジアの占める位置と役割は高まりつつある。中国は1949年の革命ののち、急速な変容と発展を経過しており、中国情勢は国内問題に加えて、隣接アジア諸地域を包摂した課題として総合的・多面的な研究を不可避としている。また、イスラームのグローバル化とその先鋭化も近年の著しい現象であり、現代世界の理解のためには、中東や中国・東南アジアのイスラームの現実を柔軟に解析することが必要である。

このような意味で、現代の中国圏域およびイスラーム圏域に関するアジア研究を新たに組織し、これを政治学・経済学・国際関係論・歴史学などを融合した学際型のプロジェクト研究として実施する。

○超域アジア・プロジェクト研究

(1) 「現代中国の総合的研究」(超域アジア研究部門、現代中国研究班)

1949年の革命以後、国内で政治、経済、社会の激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある隣邦中国の全容を、歴史・文化の流れを含めて総合的に捉える研究体制(資料、政治、経済、国際関係・文化)を構築する。関連する基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしなが、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

[研究実施計画]

「現代中国班」は、統一テーマを〈国際社会における現代中国の変容：持続と変革〉と定めた上、①《収集》②《政治と外交》③《経済》④《国際関係・文化》の4グループを編成した。平成16年度には、定例の研究会を主軸にしなが、研究発表、国内・海外の調査、資料の収集を継続実施した。業績の出版では、平成15年度に衛藤瀋吉著 *Political History of Modern China* [東洋文庫欧文論叢(TBRL)No.4] (286ページ)の刊行につづき、平成16年度に衛藤瀋吉著 *Modern Japan-China Relations* [TBRL No.5] を公刊した。さらに本年度・平成17年度には、経済グループにより、その研究成果を *Restructuring China-Party, State and Society* (Toyo Bunko Research Library No.8)として刊行する。また、当面Chinaを主体とした *Contemporary Asian Studies* (創刊号)の定期出版を開始し、収集、政治・外交、経済および国際関係・文化の各グループの、これまでの調査・収集・研究の成果をとりまとめる。

(2) 「現代イスラームの超域的研究—議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究—」

(超域アジア研究部門、現代イスラーム研究班)

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラブ、ペルシア、トルコ）を分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討することにより、中東・イスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

[研究実施計画]

「現代イスラーム班」では、まず、イラングループにより、平成17年度にイランの議会文書の中、*Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly*（ペルシア語）の成果を公刊（CD-ROM版）する。また、アラブグループは、*Muqata Defteri (Tax-farm Register) of Damascus Province in the Seventeenth Century*（西アジア研究班と共編）を刊行する。なお、アラブ・トルコの両チームは連携して資料の調査・収集・研究を継続実施する。

B. アジア諸地域研究

現代アジアの複合的かつ動的な発展を理解する上で、各民族が有する個性豊かな歴史と文化の基礎的研究が欠かせない。本研究は、アジアの現状に影を落としている歴史・文化の諸要素につき、基礎的かつ長期の取り組みを要する総合的な研究を行う。

(3) 前近代中国プロジェクト研究

① 「前近代中国の法と社会」（東アジア研究部門、前近代中国研究班）

南宋から明清時代にかけて豊富に残されている判牘文・条例などから、各時代の戸婚・田土・銭穀などの「民事」に関わる法について、その特質・歴史の変遷・地方性などを分析し、前近代中国の社会の本質を考察する。その成果は、論文集『前近代中国の法と社会』として刊行する。また研究過程では、明清時代を中心とした判牘文・条例集について調査・収集する。

[研究実施計画]

- a) 前近代中国の「民事」的な法・規範に関する研究成果を作成する。
- b) 「民事」的法・規範に関する文献目録の作成を継続する。
- c) 国内外の宋～清代の条例等の調査・収集と条例集の「内容索引」を作成する。

○基礎研究

アジア諸地域の歴史・文化の特徴を解明するために、以下のような基礎研究を実施する。

<東アジア研究部門>

(3) 前近代中国研究班

② 「中国古代地域史研究 — 『水経注』の分析から—」

『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

[研究実施計画]

- a) 陳橋驛復校『水経注疏』（江蘇古籍出版社刊）をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17・18「渭水」（甘肅省に発し、陝西省咸陽の南、西安(長安)の北を経て黄河に注ぐ）の部分、旧ソ連製（'78年、1/100,000）の詳細なランドサット衛星地図およびアメリカの航空写真と重ね合わせ、継続して諸注及び諸校訂を丁寧に検討しながら読み進める。
- b) 20世紀以降の中国における渭水流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘の報告書を集め、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水流域の古代の自然・社会的実態により具体的に迫るよう努める。この成果を「渭水流域古代地図」などの形でまとめること

を検討する。

③「宋史食貨志研究」

宋代の経済につき王朝の官僚機構が記した克明な「資料」にもとづいて、経済政策・財政運営の全体像を解明する。「資料」の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その総合的研究の成果として訳註書を完成し、また、その資料源である『宋会要輯稿』食貨語彙索引編の作成事業の完結を期す。

[研究実施計画]

- a) 隔週の研究会のもとに、平成17年度は、『宋史食貨志訳注（六）』収載の酒・香・商税・市易など講読研究会を重ねて刊行する。
- b) 前年度につづき『宋会要輯稿』食貨の部の語彙「一般編」カード約78,000枚の入力・原典照合・校正を完了し出版する。

④「東アジア都城の考古学的調査・研究（Ⅱ）」

平成14・15・16年度と続けて、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行ない、その結果として平成16年度末にその研究成果を論文集として公刊した。しかしながらその中心的なものであった、渤海上京龍泉府址（東京城）出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、整理に手間取り、一部の遺物の調査・研究については、平成17年度以降、継続実施する。

[研究実施計画]

- a) 平成17年度においては上記の一部遺物についての調査・研究を続けると共に、渤海中京顕徳府、渤海東京龍原府などとの比較という方向で調査の範囲を広げて行きたい。また従来はとかく中原との関連に目を向けがちであったが、その弊を改め、今年度から新たに、渤海と深い関係にあった遼・金の都城との関連も検討する。

（4）近代中国研究班

①「1910年代における日本の中国認識」

近代日本の政府及び民間機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識がいかなるものであったかを明らかにすることを基本に、本研究では、比較的研究の手薄な1910年代から20年代初めの時期の山東地方を取り上げる。

[研究実施計画]

- a) 構成メンバー各々がテーマを設定して、個々の研究を進め、その成果をもちよって研究会において意見交換を継続実施する。
- c) 昨年度に引きつづき関係資料の調査・収集につとめ、青島守備軍民政部鉄道部発行の『調査資料』シリーズのほか、『山東鉄道調査報告』、『青島実業協会月報』など多くの貴重資料の調査・研究を継続する。また、平成17年度には『日本の青島占領と山東の社会経済：1914-22年』の成果を刊行する。

（5）東北アジア研究班

①「日本所在近世朝鮮文献資料研究」

京都大学付属図書館河合文庫、東京大学総合図書館阿川文庫、天理図書館今西文庫をはじめとして、日本各所に所蔵されている近世朝鮮文献資料の歴史学的文献学的研究を行う。18～19世紀の商人関係文書群など、朝鮮半島では類例が発見されていない資料も多く、その全体像を把握する必要がある。本研究では、文献資料の調査と分析を行い、4ヶ年計画でその成果の刊行を期する。

[研究実施計画]

- a) 朝鮮近世史研究の基礎的基盤を構築するために、日本散在の近世朝鮮文献資料の調査と収集とにつとめる。
- b) 平成16年度に新たに3名の研究分担者の参加を得て、4ヶ年間のプロジェクト研究成果の公表を期す。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

近年、中国清朝満洲語檔案資料の重要性が注目されてきているが、清朝の基盤組織である八旗のひとつ鑲紅旗満洲の衙門（事務所）の文書群である、東洋文庫所蔵の「鑲紅旗檔満洲都統衙門檔案」の研究を継続する。同檔案には、衙門が設けられた雍正元年(1723)から民国十一年(1922)にいたる、約2,240件の文書が残されている。その文書群の「概要」については、すでにToyo Bunko Research Library No.1(2001年刊)に紹介したが、檔案のもつ歴史的意味、個別檔案の内容等について「研究編」を編み英文での刊行を期す。

[研究実施計画]

- a) 東洋文庫所蔵鑲紅旗檔満洲語檔案の「研究編」刊行の作業をすすめる。
- b) 「清入関前内国史院檔満文檔案」(北京の中国第一歴史檔案館所蔵)の『内国史院檔、天聰七年』(ローマ字転写・和訳・原文写真収載)の出版につづき、「天聰五年(1631)檔」および「天聰八年(1634)檔」について隔週の講読研究会を継続する。

(6) 日本研究班

①「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分になされていない。平成16年度以降は、江戸期の近世写本・刊本、特に歌書関連の貴重書について組織的、総合的に行い、研究の基盤を整備するとともに、これを広く社会に公表し、研究の進展に資することを期す。

[研究実施計画]

- a) 岩崎文庫貴重書書誌プロジェクトは、平成15年度までに室町時代以前の成立の古写本・古刊本について、図版を掲載してⅠ～Ⅳを公刊した。平成16年度からは、引き続いて江戸時代の近世写本・刊本を調査し、研究会を催して全体像の把握につとめ、まず平成17年度に『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅴ』を刊行するために、室町以前の歌書99件の書誌調査・解題執筆・収載図版選定などにつとめる。

<内陸アジア研究部門>

(7) 中央アジア研究班

①「St. ペテルブルグ文書研究」

東洋文庫所蔵のマイクロフィルム（ロシア科学アカデミーSt. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書）のうち、5-6世紀から15世紀頃に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献（約14,000駒）およびモンゴル語文献（約12,000駒）を整理分類し、まず、その総合解題カタログを作成する。それと並行して文献学的・歴史的・言語学的研究をすすめる、オアシス社会と遊牧社会との関連を含めて、中央アジア諸民族の残した文書により、その当時の歴史文化的背景を明らかにする。

[研究実施計画]

- a) 各言語の分担者による共同文書研究資料として使用するため、断片の文書を含めて、その複製を作成し分類整理をすすめる、まず、各言語別に文書の同定などの文献学的研究につとめる。

②「近現代中央アジアにおける民族の創成」

1991年ソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で姿を表し、周辺地域（たとえば新疆ウイグル自治区）にも影響している。この現状を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

[研究実施計画]

- a) 近代中央アジア新聞・雑誌コレクションの整理と研究を継続する。
- b) 現地資料・関連研究図書の収集：ウズベキスタン、タタールスタンなどで刊行されている最新の研究文献を調査し、さらに、1980年代後半のペレストロイカ期から、中央アジア近現代史に関する研究動向の調査を行った。また、平成17年度にはTBRL No.7 *Research Trends in Modern Central Eurasian Studies* (Part2) を刊行する。
- c) 研究チーム以外の研究者の参加を得て「ロシアにおけるムスリム共同体の構築」などのテーマごとによる研究会を開催する。

③「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を現地で作成された生の漢文文書を分析研究することによって、諸民族の歴史の実態を明かにすることにある。このために、本研究は、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特質を持っているかを、書誌学的、あるいは古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明する。

[研究実施計画]

- a) ロシアのサンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵のマイクロフィルム資料に含まれる仏教文献を含む漢文文献の調査・分類を継続する。
- b) 「内陸アジア出土古文献研究会」を開催して、標記課題のもと個別研究報告を継続実施する。

(8) チベット研究班

①「チベット蔵外文献の書誌的研究」

これまで永年にわたってチベット人研究協力者の協力のもとに「チベット語文語辞典の編纂」および「チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究」の研究業績の蓄積の上に立って、さらに一層の研究の充実を図るべく、「チベット蔵外文献の研究」を実施する。

[研究実施計画]

- a) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録の編纂カードを点検して、目録データベースの作成を継続する。
- b) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献中の河口慧海師将来文献（蔵外No. 406 ; No. 416）および注釈のウメ文字体写本の校訂と語彙収集およびデータベース化を継続する。
- c) チベットの伝統的仏教学の基礎研究書として、従来より研究を進めてきたトゥカン『宗義書』（既刊6刊）の続編として「インド仏教編」のテキスト校訂および和訳研究注記の作成を進める。
- d) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料として、チベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成の作業を継続する。

<インド・東南アジア研究部門>

(9) インド研究班

①「南アジアにおける支配権力の政治と文化」

南アジア史における支配権力は、概略、古代のヒンドゥー政権、中世のムスリム政権、近代の植民地政権、現代の民主政権へと展開した。この中、わが国において最も遅れているムスリム政権のムガル時代を中心に、南アジア史関係のペルシア語、ウルドゥー語史料の蒐集につとめ、インド=ムスリム政権の権力構造とその支配下における社会、経済、文化の実態を解明する。

[研究実施計画]

a) 研究分担者の個別研究を進める過程で、ムガル帝国時代のムスリム関係史料、ウルドゥー語史料、ヒンディ文学関係史料の調査をすすめる、蒐集計画を検討して、データ入力をすすめる。

(10) 東南アジア研究班

①「東南アジア諸国の伝統と近代化をめぐる諸問題」

東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアからの移住者も流入した。そこで、東南アジアの前近代から近代にかけてこうした移住者達が、出身地といかなるネットワークを形成し、また近代東南アジア社会の構築にいかに関わったかを、港市を拠点に考察する。

[研究実施計画]

a) 東南アジア関係マイクロフィルム資料の分類整理とデータ入力を進める。
b) 東南アジアの王統記の他者表象をめぐる記述の一覧表作成につとめる。

<西アジア研究部門>

(11) 西アジア研究班

①「イスラーム世界における契約文書の研究」

個人間の契約（売買契約など）にとどまらず、広く君臣契約や行政契約（徴税請負など）を含め、現存する文書や史料をもとに、イスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

[研究実施計画]

a) 平成17年度には、現代イスラーム班との共編で *Muqata Defteri (Tax-farm Register) of Damascus Province in the Seventeenth Century* (『17世紀シリアのムカーター台帳の校訂と研究』) を刊行する。
c) 他機関の協同プロジェクト「イスラーム写本・文書の総合的研究」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書にかかわる研究者のネットワークの構築を継続する。

C. 各種研究会・講演会開催

II. 資料収集・整理

超域プロジェクト研究・アジア諸地域歴史・文化の基礎研究とともに、図書委員会の協議によりアジアの現状および歴史に関する一次資料（写本、文書史料、刊本等）、専門研究書、定期刊行物を収集し、東洋文庫所蔵資料の補充に努める。中国雑誌については、CNKI（中国全土知識インフラデータベース）の政治・経済・法律・歴史・思想の部をインターネットアクセス方式で導入し、研究の利便性を向上させる。また、東洋文庫所蔵図書・資料は、部数約370,000件、冊数約900,000冊に及んでいるが、現在、書誌に関するデータベース化は95%（2005年2月現在）完了している

が、この整備をさらに推進し、広く一般の利用に供するために書誌データの加工作業を続行する。さらに、東洋文庫の蔵書のうち、欧文の稀覯書、貴重漢籍、また利用頻度のたかい和漢書については、原本を補修すると共に、全文テキストおよび画像情報デジタル化を推進し公開する。

- A. 資料購入
- B. 資料交換
- C. 図書・資料データ入力
- D. 資料保存整理
 - (1)補修再製本・製本
 - (2)撮影・焼付

Ⅲ. 研究資料出版

プロジェクト研究および基礎研究では、中国語・朝鮮語・満州語・タイ語・ウイグル語・アラビア語・ペルシア語など、アジア諸語で記された文書・写本・刊本・地図などを用いて研究を行い、その成果を東洋文庫和文紀要・欧文紀要に掲載するとともに、和文・欧文の研究叢書（「東洋文庫和文論叢」・「東洋文庫欧文論叢（TBRL）」）、訳注書、書誌解題などを単行本として出版する。これらの成果は、現代アジアの諸問題の解明に寄与するばかりでなく、国際的な発信を通じて国内外に大きな刺激をあたえ、アジア研究のさらなる進展に貢献するものである。

A. 定期出版物刊行

- ・『東洋文庫和文紀要』（東洋学報）第87巻第1～4号 A5判 4冊 編集・刊行
- ・『東洋文庫欧文紀要』（*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*)
No. 63 B5判 1冊 編集・刊行
- ・『近代中国研究彙報』第28号 A5判 1冊 編集・刊行
- ・『東洋文庫書報』第37号 A5判 1冊 編集・刊行
- ・『超域アジア研究報告』第3号 B5判 1冊 編集・刊行
- ・*Asian Research Trends* New Series No.1 A5判 1冊 編集・刊行
- ・*Contemporary Asian Studies* (Toyo Bunko) No.1 A5判 1冊 編集・刊行

B. 論叢等出版

- ・*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies -Part2-*
(Toyo Bunko Research Library 〈TBRL〉 東洋文庫欧文論叢 No.7)
A5判 1冊 編集・刊行
- ・*Restructuring China-Party, State and Society*
(Toyo Bunko Research Library No.8) A5判 1冊 編集・刊行
- ・*Muqata Defteri(Tax-farm Register) of Damascus Province*
in the Seventeenth Century B5判 1冊 編集・刊行
- ・*Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly*
(CD-Rom版) 編集・刊行
- ・『宋史食貨志訳註（六）』（東洋文庫和文論叢） A5判 1冊 編集・刊行
- ・『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅴ』 B5判 1冊 編集・刊行
- ・『前近代中国の法と社会』 A5判 1冊 編集・刊行
- ・『日本の青島占領と山東の社会経：1914-22年』 A5判 1冊 編集・刊行
- ・『宋会要輯稿食貨語彙索引 一般編』 B5判 1冊 編集・刊行

IV. 普及活動

春秋2期の東洋学講座では、新研究体制下で進められてきた、アジアの歴史・文化に関する基礎研究と超域アジア研究の成果を分かりやすく解説する。まず春期講座では、前近代中国の法と社会、東アジアの都城と渤海、イスラーム世界の契約文書を取り上げ（計3回）、また秋期講座では、現代中国研究と現在イスラーム研究について各2回の講座を開き、それぞれの研究成果を一般に公開する。

研究資料の収集・情報公開および研究促進のために、人員を海外に派遣し、また海外から研究者を招聘して共同研究を実施し、国際交流の進展に努める。また招聘研究者および来日中の著名な外国人研究者による特別講演会（年7回以上）を開催する。

また、東洋文庫所蔵資料の書誌に関するデータベース化は、現在総数約400,000件のうち平成16年度末までに380,000件、約95%の遡及入力を完了した。アクセス数は平成14年度以降、毎月確実に上昇している。平成17年度は、前年度に引き続き書誌データ22,500件の補充のほか、本格的な東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システムを継続して構築することにとりくむ。書籍以外の資料、地図、写真、絵画、拓本、古文書などをデジタル化し、特に重要な文献については、全文テキストをデジタル化して、公開する。本年度分としてはとりあえず、書誌データ22,400件、画像データ2,000件、計24,400件を目途として公開を進める。また当文庫の事業情報提供として、『東洋文庫年報（平成16年度版）』を刊行する。

E. 研究情報普及

- (1) 東洋学講座
- (2) 特別講演会
- (3) 談話会（東洋文庫研究会）
- (4) 参考情報提供

『東洋文庫年報』平成16年度版

A 5判 1冊 編集・刊行

B. データベース公開

- (1) 書誌データ
- (2) 画像データ

V. 学術情報提供

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

- (1) 図書・資料の閲覧（協力）サービス
- (2) 研究資料複写サービス
 - A) マイクロフィルム・紙焼写真
 - B) 電子複写
- (3) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第86巻4号	370部
東洋学報 第87巻第1～3号	各350部
<i>Modern Japan-China Relations</i> (TBRL 5)	80部
<i>The Structure of Ancient Indian Society</i> (TBRL 6)	80部
東アジアの都城と渤海	150部
近代中国研究彙報 第27号	50部
東洋文庫書報 第36号等2件	各50部
東洋文庫キャスラヴィー関係加賀谷コレクション・解説目録	30部
東洋文庫年報 平成16年度版	10部

(4) 研究情報提供サービス

(5) 広報普及

(6) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

塚瀬 進 (長野大学産業経済学部助教授)

「20世紀前半、中国東北地域における社会経済変動の研究」

(平成17年10月1日～同18年3月31日・6ヶ月間、長野大学の依頼)

2) 平成17年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

内田 直文 (九州大学大学院PD)

「清代中国の文書行政及び皇帝側近集団から見た清朝国家の支配構造の分析」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

高村 武幸 (明治大学大学院PD)

「秦漢帝国支配下の地域社会 ―紀元前3世紀末～紀元3世紀初頭の社会生活史の視点から」

(平成15年度採用、同16・17年度3ヶ年間)

石川 博樹 (東京大学大学院PD)

「16、17世紀エチオピア北部社会の研究：牧畜民の流入とイエズス会布教の影響を中心に」

(平成16年度採用、同17・18年度3ヶ年間)

五十嵐 大介 (中央大学大学院PD)

「マムルーク朝後期エジプト・シリアにおけるイクター制の崩壊過程と社会体制の変容」

(平成17年度採用、同18・19年度3ヶ年間)

河原 弥生 (東京大学大学院PD)

「コーカンド・ハーン国期におけるフェルガナ・ムスリム社会の形成とイスラーム」

(平成17年度採用、同18・19年度3ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

Je@ro¥me BOURGON (フランス国立科学研究センター [CNRS] 研究員)

「清朝の官箴類を中心とした中国法制史関係の資料調査と研究」

(平成16年6月8日～同18年3月31日・フランス政府資金)

Luca GABBIANI (フランス社会科学高等研究院研究所員)

「清朝の戸部機構および官箴類を中心とした中国法制史関係の史料調査と研究」

(平成16年7月1日～同18年3月31日・フランス政府資金)

Christophe MARQUET (フランス国立東洋言語文化研究所教授)

「江戸中期・後期の絵入り本と画譜」

(平成16年9月1日～同17年8月31日・フランス国立極東学院経費 [東京支部代表])

Claus M. FUSCHER(ドイツ連邦ゲッチンゲン大学教授)

「東洋文庫(岩崎コレクション)所蔵日本近世演劇史資料の調査研究」

(平成17年2月8日～同18年2月7日・私費)

Peter J. McDERMOTT (イギリス・ケンブリッジ大学セントジョーンズカレッジフェロー)

「中国華北・華南都市の社会組織と構造：700年～1700年」

(平成17年7月16日～同9月13日・60日間、日本学術振興会の招聘)

B) 外国人研究者への便宜供与

平成17年度財団法人東洋文庫特別事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年度財団法人東洋文庫特別事業計画の概要は下記の通りです。

事業内容

I. 特別調査研究並びに研究成果の編集等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

A) 平成17年度科学研究費補助金による事業

1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

[名称] 「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

[分野] 「東洋学全般」

[目的・内容]；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である(財)東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数370,000件、冊数900,000冊におよぶ大量の多言語資料について、従来構築した書誌データのオンライン検索の基礎の上に、画像資料をデジタル化した上、インターネットを通じて内外の研究者が自由に利用できるようにすることを目指している

本文庫のモリソン・岩崎コレクションには国宝、重文を含む貴重な文献、絵画が含まれる。これらは、本文庫として従来から細心の注意を払って保存してきたが、近年の電子技術により、これをデジタル撮影して保存し、画像データベースにより公開すれば、内外の要請に応えることができ、また資料保存の面でも劣化に対応することができる。特に地図（江戸地図200種、欧米人のアジア地図300種）、銅版画、浮世絵、挿絵本、中国南北朝拓本、考古学者の中国・朝鮮・日本関係発掘資料、器物写真など、デジタル化して画像資料として研究者に提供する価値のあるものが多い。また、マルコポーロ東方見聞録のテキスト50数種、16世紀以来のイエズス会士の書簡、江戸時代のオランダ商館関係者の記録などの古洋書、岩崎家収蔵の万葉集、源氏物語、徒然草などの貴重古典籍なども、全文テキストとして公開することが内外研究者から期待されている。昨年度から、画像データベースの構築に着手した。台湾の国家典藏数位計画、上海の資料庫構築計画、シンガポールアーカイブのデジタル資料状況などを視察した上、独立行政法人情報学研究所と技術提携し、資料のデジタル化を試行してきた。文化庁・総務省によるデジタルアーカイブの構築にも情報学研究所を通して画像資料を提供している。本文庫として、デジタル化の対象となる膨大な資料を擁している。デジタル化計画は着手したばかりであるが、関係諸機関との協力の下に、できるだけ早く目的を達成する。

[事業実施計画]；

(1) 書誌データ

漢籍データのうち、叢書類の子目書70,000件は、従来、脱落していた著者名の補充入力をはかる。内部の日々雇用者による手作業でチェックした上外注入力、3,000件程度。他に和書、多言語書誌データ追加入力2,000件程度。また、長期間にわたって複数の担当者が入力してきたため、データの間、不統一が起っている。このため、データの統一のための処理作業が必

要となっている。

平成17年度には、前年度に引き続き書誌データ22,400件を目途として公開を進める。

(2) 画像データ

- ①地 図 江戸時代刊行の江戸府内図200枚、京都、大阪など地方図100枚のうち、100枚を選んでデジタル撮影。
- ②絵 画 室町、江戸時代の絵本、仮名草子、お伽草子、洒落本、黄表紙、読み本、名所案内、旅行記、などに含まれる挿絵のうち100枚を選んで、デジタル撮影。
- ③浮世絵 江戸時代の浮世絵300枚のうち、画帳類100枚を選んでデジタル撮影。
- ④考古器物 梅原考古資料のうち、朝鮮・中国出土器物のマイクロフィルムをデジタル化する。以上、2,000件の公開を目指す。

(3) 全文テキスト

- ① イエズス会士書簡 マイクロフィルムからデジタル化。2,000頁。
- ② 岩崎貴重古典籍 マイクロフィルムからデジタル化。3,500頁。

以上のほか、本文庫の所蔵の特色である漢籍地方志・族譜などについては、内外の利用者が多いので、各書の序跋、巻首の書影などをデジタル化してWebに上げることがを計画している。本年度においても、もし余裕が生ずれば、この作業にも着手したい。

2) 基盤研究（B）の対象事業

[課 題] 「第一次大戦期日本の山東経営をめぐる総合的研究」 [研究代表者：本庄比佐子]
(平成15年度採択、4ヶ年間・3年度目)

[目 的]；

第一次世界大戦期に日本はドイツの青島要塞を攻略し、山東半島を拠点として中国大陸に対する利権拡張政策を積極的に展開した。そしてこの時期以降、日本は青島、山東半島を拠点に、それまで主に東北地域と台湾に限られていた利権を、中国の関内地域に拡大していく。本研究では、この時期、1910年代後半から1920年代初めにかけて、青島守備軍、満鉄、農商務省などの国家機構を動員して進められた山東地域など中国の実態調査の全貌を明らかにするとともに、それらの調査資料を参照しつつ、青島・山東地域を中心に、当時の中国の政治・経済・社会に関する総合的な考察を試みる。

[事業実施計画]；

- (1) 本プロジェクト第1、2年度は資料の収集と整理・分析を中心に活動を行ってきた。本年度は、資料の分析作業を引き続き行いつつ、これに基づいて、研究の中間報告としてのまとめに重点を置いて進めることとする。その際、[役割分担]の項に記載の如く研究テーマを分担する。
- (2) 上記の作業を進めるために資料の補充収集（日本軍占領期の後半時期に関する資料収集が不十分）を外交史料館・防衛庁防衛研究所図書館を中心におこなう。
- (3) 当時の資料からリストアップできた青島守備軍などの作成した調査資料のうち、これまでの調査では見出し得ていない資料の発見に努めつつ、新たに大阪府立図書館、愛知大学霞山文庫などでも資料調査をおこなう。そして、当時の調査活動の内容とその利用価値を明らかにする資料の解題を準備する。
- (4) 日本の山東進出において重要な産業の一つである塩業やマッチ製造業など、現段階では個別の研究テーマにはなっていないが、これらをも含め日本の進出の実像を明らかにし、中国の政治・経済・社会状況と重ね合わせて山東経営の考察を進めて報告書を準備する。

B) その他の平成17年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

① [課題] 「中国古代地域史研究 - 『水経注』の分析から」

[代表研究者：堀 敏一] (平成14年10月～17年9月・3ヶ年間)

[目的]；

本研究は、中国中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、近年の考古学や科学の発展によって再検証が求められている典籍史料の再構築を目指すという明確な目標を有するとともに、『水経注』という限定した文献的な整理とその考察とによって、古代地域史の水準を高め、中国古代史の新解釈を試みようとするものである。

『水経注』は黄河と長江及びその支流全域にわたり逐条、各地の詳細な調査と記録を行ったものであり、我国でも『水経注』の部分的注解や翻訳は行われていたが、なお注文まで含めた徹底的な解釈、翻訳はなされていない状況にある。

本研究プロジェクトでは、数年来継続してきた『水経注』の総合的注釈作業を基礎とし、清代考証学の成果である『水経注疏』(楊守敬・熊会貞疏・段熙仲點校)をテキストとして使用して、原典に関する精査、分析整理を行っている。若手研究者の補助を得つつ、考古学資料などをも加味することによって新解釈を成し遂げ、以て『水経注疏・新訂』の刊行を目指したい。

[研究実施計画]；

現在、渭水水系に関する部分、『水経注疏』巻17、18渭水を検証している。渭水水系は周、秦、漢、前秦、北周、隋、唐といった王朝の都城が置かれた地であり、中国古代史の核となる地域である。本研究では、まず『水経注図』(楊守敬篇)を基礎資料として参照しつつ『水経注疏』の輪読を進めている(隔週木曜日開催)が、新しい中国の地図はもちろんのこと、本事業に対する助成金で逐次購入しているロシアで作成された詳細なランドサット衛星地図やアメリカの航空地図を活用することによって、より丁寧に当該地域の地形や地勢を検討することが可能になった。特に、これまでに読み進めてきた甘粛省の山岳地域では、河川流路の変移があまり見られず、現地形をもって考察の対象とすることが可能である。よって、ロシアの衛星地図には微細な等高線や河川の流行状況などの地理情報が克明に示されており、衛星地図の活用によって従来解読が困難とされていた部分も詳細な解釈が可能になった。

なお、現在の具体的作業状況は以下の通りである

- (1) 陳橋駅復校『水経注』をテキストとし、その巻17・18“渭水”の部分、諸注および諸校訂を丁寧に検討しながら読み進めた。現在、陝西省の宝鶏市付近まで読み進めた。原文の訓読と諸注の再検討を合わせて、訳注書を作るべく準備を進めている。
- (2) 平成17年5月に北京大学考古学研究室、中国社会科学院考古学研究所の協力のもとに研究分担者・協力者のメンバーによって、陝西省宝鶏市岐山県の周公廟遺跡、鳳翔県の水溝遺跡・雍城秦公墓などの最新の発掘現場の調査・見分を実施する。
- (3) 20世紀以降の中国における渭水上流域の諸遺跡の考古学的調査・発掘報告書を集め、これまでに、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせ検討し、渭水上流域に対する注釈書『水経注疏』1(仮題)の整理を行なった。この作業成果は、さらに充実させて新たに「渭水流域古代地図」を作るなどの形でまとめたい。

平成17年度財団法人東洋文庫特定事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成17年度の財団法人東洋文庫特定事業の計画は下記の通りです。

事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)。

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社元社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広くアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進める。